

脚氣

みあかし、いのちのあらんかざりたてまつらんなど申給ていで給て、りうもむ、びそ、たかまつほ
さるみたけまうでまのびてまうで給ふ、さるま、に、さ、しきみちをあゆみもしり給はず、あゆ
みたまへば、御あしはれぬ、かくてもおぼす事のかたかるべきを心ぼそうおぼしつ、まうで給
を、ひぢかさあめふりかみなりひらめきて、おちか、りなんとする時に、右大將のぬし三條の北
方頭中將よりも、あて宮にきこえさしてやみなんずる事とおぼすに、なみだと、まらず、おもほ
さる、それよりもかくきこえ給へり、

おもふことなすてふ神もいろふかきなみだながせばわたりとぞなる、ときこえ給へり、あて
宮み給て、物もの給はず、

〔倭名類聚抄^三〕脚氣 醫家書有脚氣論脚氣一云脚病

俗云阿之乃介

〔箋注倭名類聚抄^二〕新唐書云、脚病論三卷、脚氣論一卷、蘇鑿徐王等編集、現在書目錄云、脚氣論一
卷、周禮撰集、醫心方引蘇敬脚氣論、今皆無傳本、未知此所引何氏書、曲直瀨本醫家書有脚氣論七
字、作病源論云、脚氣爲病本、因腎虛十二字、疑後人所改、河海抄所引與舊同、病源候論、凡脚氣病、其
狀、白膝至脚、有不仁、或若痺、或淫々、如蟲所緣、或脚指及膝脛洒々爾、或脚屈弱不能行、或微腫、或酷
冷、或痛疼、或緩縱不隨、或攣急、或至困能飲食者、或有不能者、或見飲食而嘔吐、惡聞食臭、或有物如
指、發於喘腸、逕上衝心、氣上者、或舉體轉筋、或壯熱頭痛、或胃心衝悸、寢處不欲見明、或腹內苦痛而
兼下者、或言語錯亂、有善忘誤者、或眼濁精昏憤者、此皆病之證也、按脚病、見續日本紀、空物語藏開
下卷樓上卷、源氏物語若菜上卷、及本書廣本藥名類犀角湯條、阿之乃介、見空物語國讓下卷藏開
下卷、源氏物語夕霧卷、枕冊子、

〔伊呂波字類抄^安〕脚氣アシノケ、有脚氣論

脚病同 〔同加人體〕脚病カクビヤウ、

〔撮壤集^下〕脚氣カクアシ